

# NEWS RELEASE

平成23年9月30日  
国土交通省中部地方整備局  
木曽川上流河川事務所

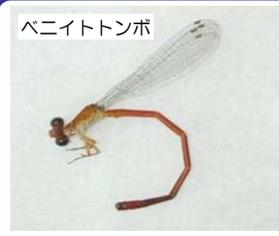
1. 件 名 第4回「トンボ池等湿地環境再生検討会」の開催について
2. 概 要 岐阜県笠松町の木曽川北派川に位置するトンボ池周辺には過去には多くのトンボや沈水植物の生息・生育が確認されていました。しかし近年、冬の渇水期には水枯れ、底泥の堆積、外来魚等の侵入などの影響でトンボの種類・数が減少するなど、生息・生育環境の悪化がみられています。このトンボ池等の自然を復活・保全するために市民、行政、及び学識経験者が協働して対策を検討し再生実現を図る事を目的に「トンボ池等湿地環境再生検討会」を組織しています。  
第4回検討会では平成22年度実施した再生対策の報告、本年度の春夏に行った調査の速報、並びに再生対策、連携・協働、モニタリングについて審議するために開催します。
3. 日 時 平成23年10月6日（木） 13：30～15：30
4. 場 所  
国土交通省 水辺共生体験館 セミナールーム  
〒501-6021  
岐阜県各務原市川島笠田町（河川環境楽園内）  
TEL：058-251-1463
5. 主な議題  
平成22年再生対策の報告について  
平成23年度調査計画及び速報について  
トンボ池等の再生対策について  
連携・協働、モニタリングについて
6. 資 料 別紙のとおり
7. 解 禁 指定なし
8. 配 布 先 岐阜県政記者クラブ
9. そ の 他 本検討会は公開で行います。  
カメラ等の撮影は、座長の冒頭挨拶までとさせていただきます。  
貴重種情報を扱う場合は、退室していただく場合があります。
10. 問合せ先 国土交通省中部地方整備局木曽川上流河川事務所  
河川環境課長 白江 健造 電話 058(251)1378

# トンボ池の再生に向けて

## トンボ池の湿地環境について

トンボ天国は岐阜県笠松町の新境川の流れが変わり、かつての川が池として高水敷に残された池群の総称です。

これら池群にはトンボの種数が多く、中でも地域のシンボルであるトンボ池には、トンボ類をはじめとする多様な水生生物が生息・生育しています。



かつてトンボ池にはオニバス、ベニイトトンボ等、絶滅が危惧される貴重な動植物が確認される豊かな自然がありました。

近年では、トンボ池の干上がり、外来種の進入、水質の悪化によるトンボ等の生息・生育環境が悪化が懸念されています。



## 対策：掘削（浚渫）とシードバンク

水質汚濁の原因の一つである底泥の除去を行いました。また、水中の溶存酸素を増加させる目的で水生植物の再生を図りました。具体的には池底に光を当て植物種子の再生（シードバンク）を目指しました。



対策後



対策前の状況

現在は、濁度が下ががり水質が改善されました。シードバンクによる沈水植物の再生も確認できました。

## 対策：地域連携

トンボをシンボルとした環境学習や池の再生を目的に地域での活動を行う中で、トンボ池近くの学校のプールでヤゴを捕獲し、トンボ池に放流する活動を行いました。昨年に引き続き下羽栗小学校の6年生がヤゴを捕獲し、6月3日に放流しました。笠松町及び木曽川上流河川事務所のHPIに掲載しています。



ヤゴを捕獲



インタビューを受ける子供達

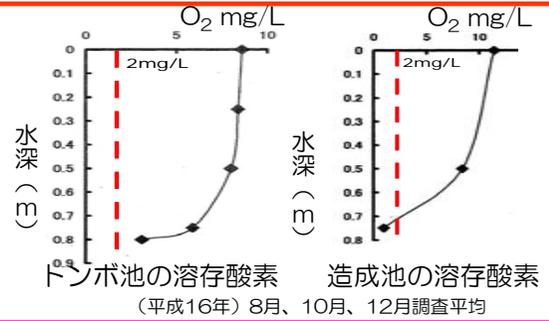


ヤゴを放流

## 問題：水質の悪化

トンボ池と造成池では、池底の溶存酸素（水中に溶存する酸素のこと）が低下し、トンボ類の生息環境が悪化しています。

水中の溶存酸素が2mg/L以上ないと魚類をはじめとする水生動物は呼吸ができないと考えられています。



トンボ池の溶存酸素 造成池の溶存酸素 (平成16年) 8月、10月、12月調査平均

## 対策：竹林を伐開

昨年に続き密林と化した竹林の竹のみを伐開しました。この結果、見通しが良くなりました。環境や景観も改善され、池に光が当たる場所となりました。



伐開前の状況



## 検討会での審議

### 第4回検討会で

- ・平成22年度の再生対策及び調査の速報
- ・トンボ池等の再生対策と連携、モニタリング計画ほか

等について審議します。